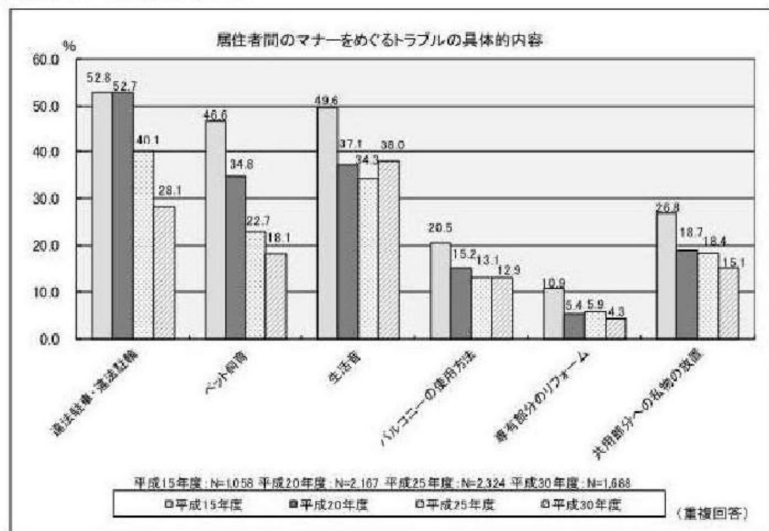


入居率アップの騒音抑止と防犯システムとスマートリモコン

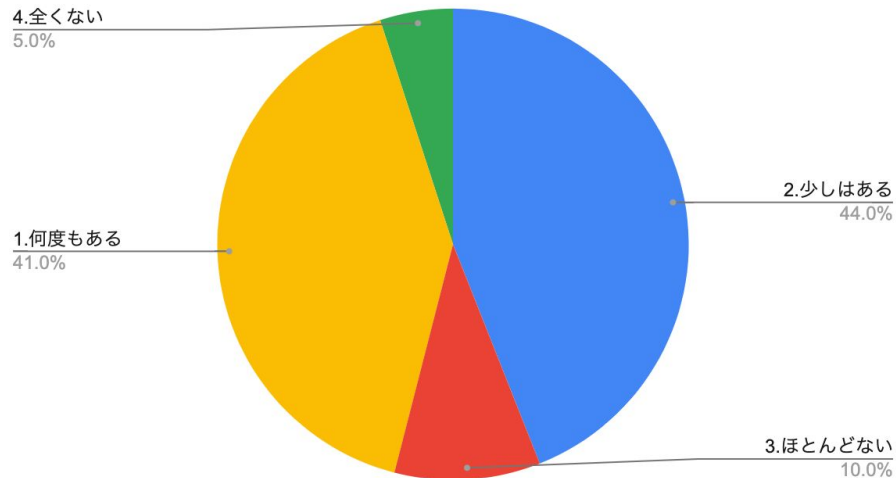
# マンションにおけるトラブルで騒音トラブルが最多。

まず始めに、国土交通省「マンション総合調査」平成30年度によると、生活音が38.0%と最も多くトップとなっており、次いで違法駐車・違法駐輪が28.1%、ペット飼育が18.1%となっています。

平成30年度は、生活音が38.0%と最も多く、次いで違法駐車・違法駐輪が28.1%、ペット飼育が18.1%となっている。



## 「騒音が気になったことはあるか」のカウント数



弊社アンケート結果

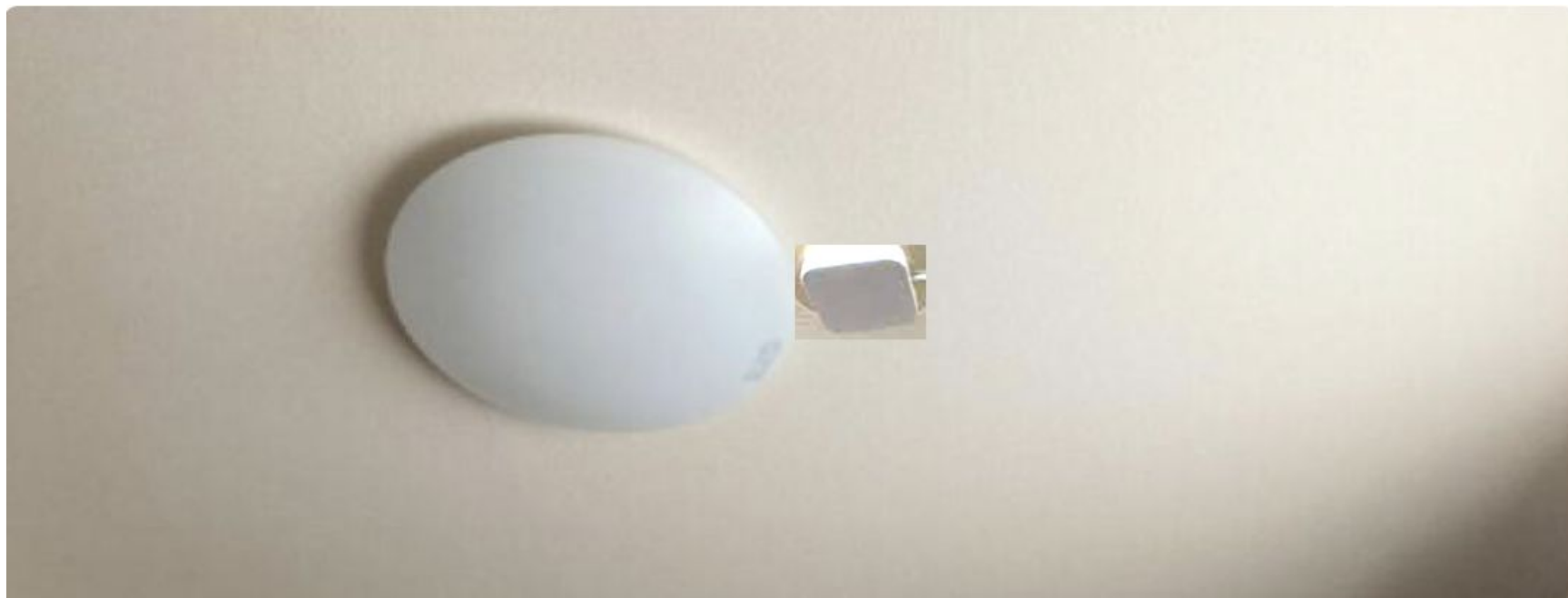
## 騒音をなくすことで入居率・入居継続率アップ

仮に、騒音が起きにくいマンションだと入居前にわかっていたら、入居率アップにつながる。

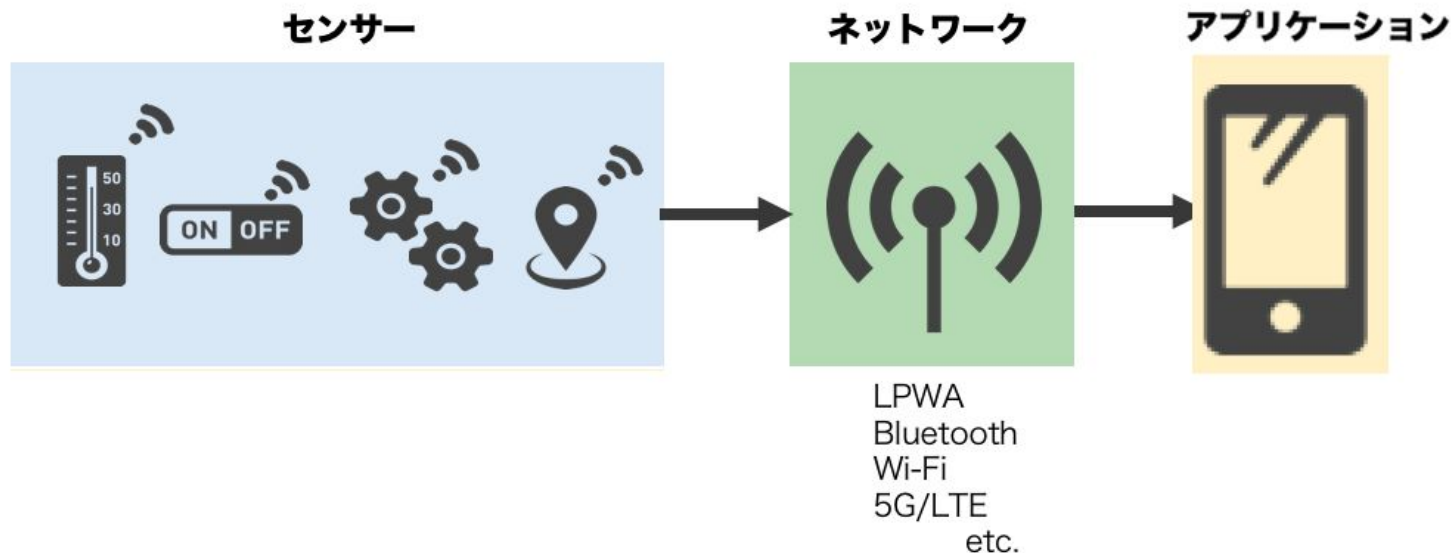
また実際に騒音トラブルがなければ、入居継続率もアップする。

# 騒音が起きにくいデバイス

天井の電灯から専用のアダプタを使い、天井にこのデバイスを貼り付けるだけ



# うるさい部屋に自動で注意通知



振動、騒音、人感、温度、湿度のデータが取得されており、うるさい部屋の住人のスマートフォンに注意通知が自動で送付される。(アラート音もデバイスから鳴る)

騒音が減り、住人の生活満足度が上がる。騒音トラブルの対応機会も減る。

これまで住人は上の人からうるさくてもクレームを出すことでトラブルが発生するのでは、と言えなかった人も多い。その中には騒音が原因で退去する人もいる。それをクレームを出さずとも機械が自動で注意するので住人にとっても非常に便利。

騒音を出している人はその音が下の人や隣人にどれだけ聞こえているのか、わかってない人が多い。

それをデータ取得し、見える化をし、一定条件を超えた場合、注意通知することで気づかせることができる。それをきっかけにどれくらい音を出すと下や隣に騒音になるのか、気づかせることができ、騒音の抑止力になる。

## 入居率アップ、入居継続率アップにつながる。

- ・同じ条件の物件があった時に、このデバイスがある方が騒音トラブルが発生しにくいということで選択されやすい。
- ・騒音トラブルが起きず、入居継続率もアップする。

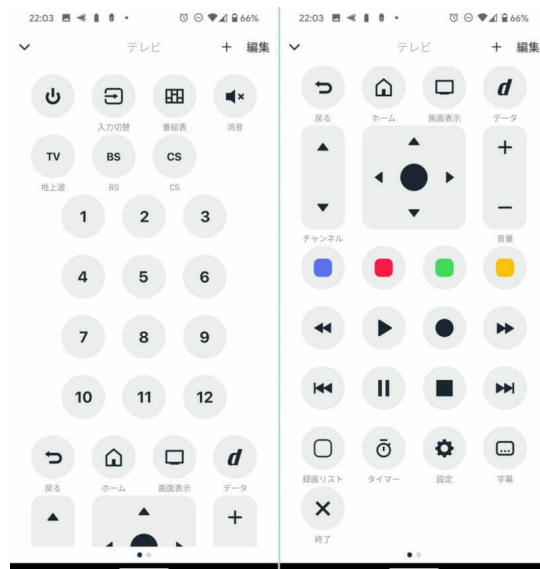
## 騒音トラブルの際に証拠を持って戦える

- ・騒音トラブルの際に音量データ(デシベル)の測定値を提供可能。  
これを問題のある住人に提示し、一般的なレベルを超えていて問題だ、と説明できる。  
強制退去をさせたい時、また裁判に発展した時などにも証拠があるのでオーナー側が有利になる。

## その他の機能、スマートリモコン

住人のスマートフォンからテレビ、照明、エアコンを操作できる。リモコンを探す手間もなく、テーブルもスッキリする。

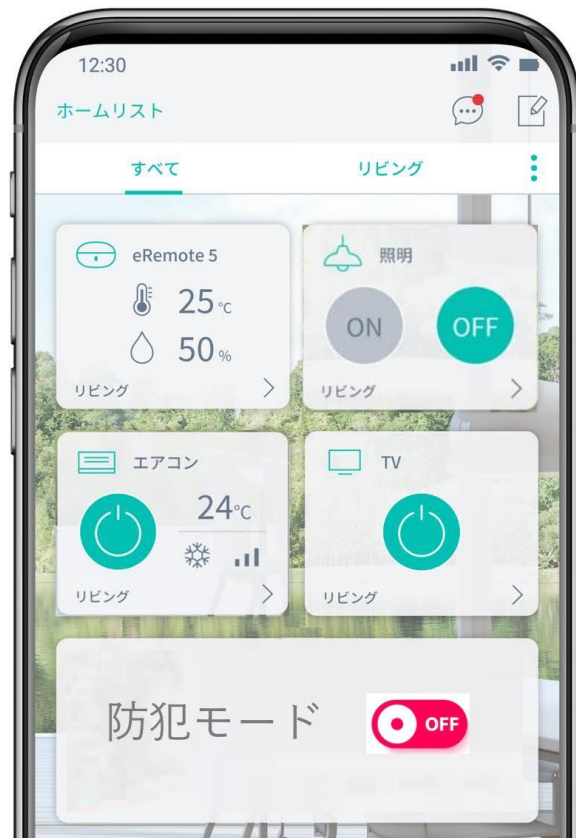
かつ出先からも操作できるので、帰宅30分前にエアコンを入れて部屋を暖めておくなどもできる。住人にとって嬉しい機能。



テレビリモコン画面

## その他の機能、防犯モード

防犯モードをONにして外出すると、OFFにする前に誰かが部屋に侵入すればアラートが鳴り、かつ住人のスマートフォンに通知が届く。泥棒はバレたと思いすぐに逃げるし、かつ警察をすぐに呼ぶことができる。



料金ページ

## よくある質問

細かい部分の解説、地震などの振動の誤診を避ける仕組み、プライバシー保護の設計説明(音声を録音しておらず、音量の測定のみ、また防犯モードはカメラ撮影で判断しているのではなく、人感センサで判断している)